

# 病虫害防除技術情報 第2号

令和 2年 4月22日

三重県病虫害防除所

**県内のネギ産地でネギアザミウマの薬剤感受性が低下しています。  
防除効果が劣る場合は薬剤選択に注意が必要です。**

1. 対象作物： ネギ類
2. 対象病虫害名： ネギアザミウマ
3. 発生状況
  - (1) 三重県内のネギ産地において、ネギアザミウマの薬剤感受性の現状や産雄単為生殖系統の発生の有無を把握するため、薬剤感受性検定と生殖系統の調査を実施しました。
  - (2) 生殖系統の調査結果では、県内6地点（A～F）のうち、D、E、Fの3地点では産雌単為生殖系統でしたが、A、B、Cの3地点では産雄単為生殖系統が混発していました。（表1）
  - (3) 薬剤感受性検定については、特に合成ピレスロイド剤のシペルメトリン乳剤では、産雄単為生殖系統に対する補正死虫率が40.6～55.0%と低く、著しい感受性低下が確認されました。地点によってはピリダリル水和剤、トルフェンピラド乳剤などでも感受性低下が確認されました。

(表1) 各薬剤のネギアザミウマ成虫に対する補正死虫率(%)<sup>a)</sup>

(三重県農業研究所:2016～2019年調査)

IRAC コード	供試薬剤 (一般名)	希釈 倍数	産雄混発個体群 <sup>b)</sup>			産雌個体群 <sup>c)</sup>		
			A	B	C	D	E	F
1B	ダイアジノン水和剤	600	34.5	83.0	94.5	100	100	100
3A	シペルメトリン乳剤	2,000	50.9	40.6	55.0	100	100	100
4A	アセタミプリド水溶剤	2,000	87.7	71.9	86.0	100	100	-
	イミダクロプリド水和剤	5,000	72.1	97.1	97.0	100	100	100
	ジノテフラン水溶剤	2,000	71.4	70.7	83.5	100	100	100
5	スピネトラム水和剤	2,500	100	97.0	100	100	100	100
	スピノサド水和剤	2,500	100	100	100	100	100	100
6	アバメクチン乳剤	1,000	-	75.2	91.0	70.0	100	-
21A	トルフェンピラド乳剤	1,000	100	53.0	59.3	46.0	98.0	-
28	シアントラニリプロール水和剤	2,000	-	72.3	96.8	100	100	-
UN	ピリダリル水和剤	1,000	44.4	47.7	60.7	65.6	27.0	100
未定	フロメトキン水和剤	1,000	-	100	100	-	100	-

a) 補正死虫率=100×(無処理生存虫率-処理区生存虫率)/無処理生存虫率

b) 産雄混発個体群とは、産雄単為生殖系統と産雌単為生殖系統の混発個体群であることを示す。

c) 産雌個体群とは、産雌単為生殖系統のみの個体群であることを示す。

-は未実施を示す。

4. 防除対策
  - (1) ネギアザミウマの生殖系統には「産雌単為生殖系統」と「産雄単為生殖系統」の2系統があり、産雄単為生殖系統は、合成ピレスロイド剤など殺虫剤に対して抵抗性を獲得しやすいとされています。ネギアザミウマの防除で効果が見られない場合は、防除薬剤の見直しを行ってください。
  - (2) 薬剤ローテーションに努め、他の害虫（シロイチモジヨトウなど）の防除の際も、ネギアザミウマの薬剤抵抗性に配慮して防除を行ってください。

農薬はラベルの表示を確認して、正しく使用してください。